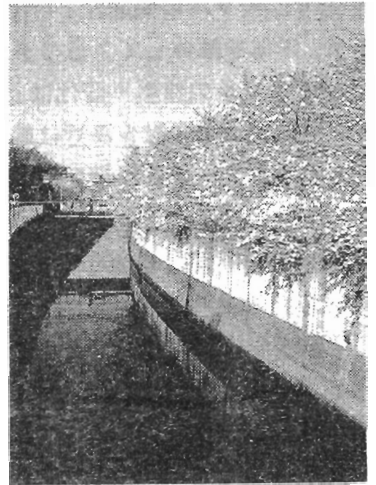


いたばし
 ビオトープ
 ネットワーク
 学校訪問シリーズ 5

白子川から学ぶ～三園小学校 「子どもが意識していないことを 意識させるおもしろさがあるんです。」

ここに一冊の本がある。「白子川を知っていますか。」一水辺再生に向けて一（白子川汚濁対策協議会・刊）である。その本の解説によると、白子川は、練馬区の大泉井の頭公園の湧水から始まり、和光市・板橋区の境の北西を遡って新河岸川（昔は荒川に）に注いでいる総延長10kmの1級河川である。



ビオトープのある三園小の裏庭に沿って流れる白子川

武蔵野台地のはずれにあたる板橋区成増・和光市の台地から急に平地に落ちるあたりにも湧水が湧き出でて、この川の成り立ちが湧水によるものとわかっただけで、なにか、この川のことをもっと知りたくなってくる。川越街道の方の成増から和光市へ登るあたりの魚屋が、今も湧き水を使って魚を洗っているそうである。おまけに、現在も川沿いの湧水は一部健全なのだ！

三園小学校は裏手が白子川に面し、新河岸川に注ぐ合流地点にほど近いところにある。そのため、総合的な学習の時間の計画が立てられた当初から、白子川は6年生の教材となっていた。

昨年、5年生が白子川流域の自然について調べ学習に取り組むことになった。

夏休みのある日、前5年担任の清水諭先生に取材することができた。

Q 白子川を見て、子どもたちはどんなことに気づいたのでしょうか。

A 魚がいっぱいいる川、鮎が遡上してくる川、そして 汚い川という印象でした。（合流地点は、海拔が低く、荒川から、逆流してくることがあり流れが溜まりやすい流域）

Q 指導時間はどの位ですか。

A 20時間扱いでした。

Q 先生の願いはどんなものでしたか。

A 身近な自然にふれさせ、実際に調べて、子どもたちの活動に発展するような学習を願っていました。

Q 子どもたちはどんなことを調べたいと思ったのでしょうか。

A 白子川の歴史と変化・白子川の生きものと生きものマップ・第一公園の樹木と未来予想・緑の工夫などです。子どもたちは湧水が流れているのに、なぜ川が汚いのかと不思議に思っていました。

Q 調べ活動・見学などはどのように行ったのですか。また、ねらいは？

A 安全のため保護者に同行してもらい、まず湧水を見にいきました。地図にある湧水のうち、1箇所は



清水諭先生

なくなり、地福寺では今も流れていました。(お清めの手洗い場)

ねらいは、川の様子を見ること一汚いところ、きれいなところ、もが生えているところ、マンションが建てられ水路が変化してしまったことなどに気づきました。そして、開発と自然保護について考えるきっかけになりました。

Q 「環境調査隊発表会」はだれに向かって発表したのですか。

A 3年生4年生です。下級生たちにわかりやすいように、すごろくで木の名前を覚えられるようにしたりしました。川が汚くなったのは、人の行いの結果であり、モラルの問題だと子どもたちが理解できました。学年を解体して16のグループが発表しました。

Q 子どもたちの成長・変化はどのようでしたか。

- A
- ・三園地域の自然を身近に感じられたこと
 - ・かなりの自信をつけて下学年に伝えられたこと
 - ・今までやったことがないことをやったこと、水質検査や透視度計を借りてきて(知水資料館アモアより)本格的に調べたこと
 - ・自由な調べ学習で、モチベーションを高められたこと
 - ・これまでは、白子川の学習はやったものの記録を残してこなかったが、今回は下級生に伝えることができたこと。
 - ・5年生で、学校のビオトープ図鑑を作ることも出来た。
 - ・先生自身が身近な題材があるとやる気になること
 - ・子どもが意識しないところを意識付けさせるおもしろさを感じたこと

Q これからの環境教育への願いをお聞かせください。

A ①ビオトープを利用していくことです。

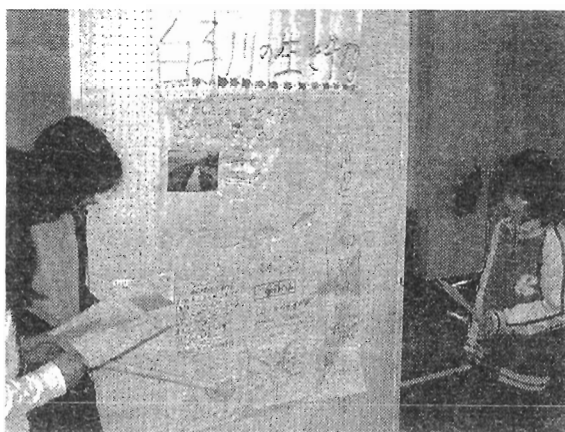
小さな自然がある。生きものがたくさんいる。自然が凝縮されているところ。学校の裏手にあり、なかなか子どもたちが行かない場所にある。行くには約束がある。下学年の子に特にふれあいをさせたい。

行ってもよい場所にしたい。休み時間、学年園と共に足が向くように。授業で使ってもらいたい。

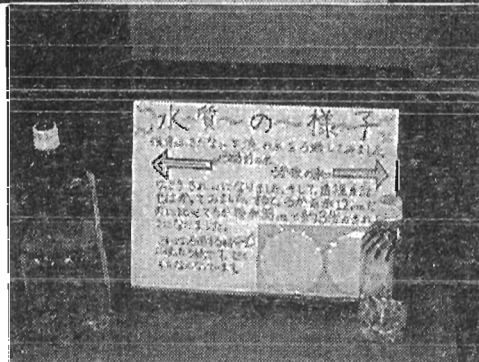
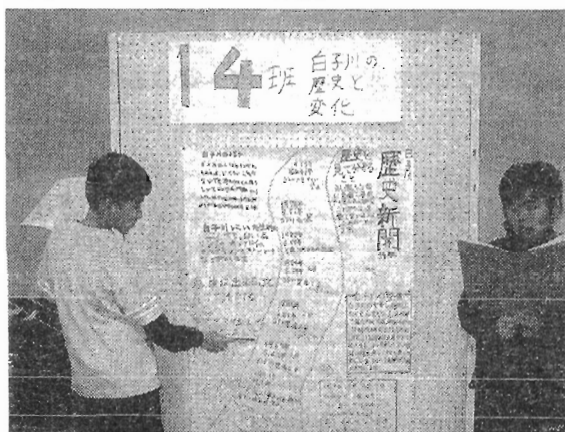
②池と緑の委員会の活動をさらに発展させたいです。

18年より、委員会が「花壇と百葉箱の管理、ビオトープの生きものの管理、観察をしています。また、専門家と一緒に、シート」の修繕をおこないました。

③白子川の学習を広げていきたいです。子どもたちの自由な発想を生かすことが出来る学習です。この学習を下学年にしっかり申し送りし、学びを繋げていくようにしたい。



調べたことを、下級生たちに伝えるために一生懸命、工夫をこらしたパネルの説明。



水質調査も本格的に



沖縄エコツアー 9月7日～10日


16名参加で、海辺のゴミひろい・サンゴの観察エリア設置作業と観察・カメラ、シニ
イベントレポート ノーケリング体験・沖縄料理づくり・地元の方々との交流・沖縄の風習など胸をときど
きさせながら、五感でたくさん感じてきました。来年も行きたいという声が無数に上
がっています。無事終了しました。報告は次号から。お楽しみに。

イベントー秋のお誘い

荒川クリーンエイド 2006 (秋のクリーンエイド)

10月22日(日) 10時～12時 場所 荒川河川敷 自然生態園前土手集合

みんなでわいわいゴミひろいして、後は、手作りの炊き出し(板橋野鳥クラブ)に参加。野鳥も観
察します。昨年からSOEも共催で、楽しく参加しています。



日本女子大学人間社会学部 日女祭(ひめの祭)学園祭のテーマ「SPARK」

10月21日(土) 22日(日) 10時～17時

交通一小田急線各駅停車読売ランド前下車 15分、

向丘遊園前下車 日本女子大学スクールバスにて15分

いつもSOEの観察会や沖縄エコツアーにたくさん参加している日本女子大学人間社会学部の学生たち
が、文化祭の展示に取り組んでいます。

学生による西生田地域(大学構内のとびきり豊かな自然)の自然観察展示(予定)。

有志による沖縄エコツアーの報告(予定)などもありそうです。SOEもかけつけます。

ナチュラリスト藤本和典さんといっしょに楽しむ自然観察会

11月18日(土) 10時～13時 (予定)

藤本和典さんと共に、高島平の街から、赤塚公園まで身近な自然にふれながら、わかりやすく楽しい解
説をうかがえます。何気ない生き物が、植物がとても大切なものに見えてくる自然体感散策です。赤塚
公園でネイチャーゲームもするよ。親子で参加してね。軽食飲み物 持参。次号で詳しくお知らせします。

雑木林探検

12月上旬予定

川越の雑木林でみんなで落ち葉はきをして、雑木林を元気にさせます。そこで 焼き芋パーティなど。
野菜もいただいて帰ります。親子で参加してね。お楽しみに。

イベントに関してのお申し込み、お問い合わせは

電話 03-3960-6052 または Eメール info@npo-soe.jp センスオブアースまで

発行 特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp